



あなたの税金に感謝し、未来に笑顔を

大田区立大森第二中学校 三年 齋地 柚来

中学校初めての始業式の日、先生から小学校とは比べ物にならない量の教科書をもたらって驚いた。

しかし、もっと驚いたのは、教科書の裏に名前を書いていたときに見つけたとても小さい字で書かれたある言葉だ。それは「この教科書は税金によって無償で支給されています」という言葉だった。私だけでも二十冊以上ある教科書、これだけでもすごい金額なのに、これが学校全員分、この日本に住んでいる小中学生全員分となるともう私には想像できないほどの金額になる。

私が税金について知っていることは、税金はみんなのために使われているということだけだった。また、その時は税金について知ろうと思わなかった。なので、私はまず税金を知ろうと思った。

調べてみると、税金は道路や公園の維持管理、災害対策等様々なところで使われていることが分かった。私はこのとき初めて税金がどのように使われているのかを知り、今までの税金に対する「私も大人になった払わなきゃいけないのか」という後ろ向きな考え方から前向きな考え方に大きく変わった。

そこで私たちの教科書が税の分類ではどこに分類されるのか気になり調べてみた。すると、これは小中学校の学校教育のために使われる教育費というものに分類されることが分かった。

東京都の歳出の内訳を見ると。教育費は八兆四千五百三十億円のうち十六・五パーセントの一兆三千九百八十三億円もお金が使われていることが分かった。こんなにも多くの税金が私達のために使われているんだと、とても驚いた。そして、その税金は教科書に加えて、パソコン、実験器具、楽器、体育用具、図書室の管理運営、机、椅子、建設費などに使われていることが分かった。このとき私は初めて学校は多くの税金が使われて成り立っているんだと知った。それと同時に、私達は日本国民全体に税金という形で支えられているから通うことも、学ぶこともできるんだと思い、税金を払ってくれている大人たちにもっと感謝しなければいけないと感じた。

また、税金を払うときに「なんで私が」と後ろめいた気持ちで払っている人が多いなと周りをみていると思う。これは、今までの私と同じように税金の使われ方が分からないから起こってしまう気持ちなのではないかと私は思った。今の日本にいる大人に、もっと税金について多くの子どもが「あなた」の税金に感謝しているということを知ってもらえればもっと多くの人が笑顔で税金を払ってくれると思う。私はこのような社会を作っていきたい。

そのためにはまず、私たちの生活が税金によって成り立っていることに感謝しながら生活しようと思った。